

### ○専門家の招聘

新しい教育施設の整備にあたっては、本来、教育理念と運営方針などソフトを踏まえた上でのハード面の整備が必要となります。これら、アンケートの設問内容もそうですが、建物、整備等のハード面の整備が独立して先行しているような感じがあります。今後、教育委員会や企画財政など、教育理念、人口減少を踏まえた行政運営の観点から総合的な議論が望まれます。

そのため、ワークショップに参加した際にも提案させていただきましたが、この整備にむけた議論の段階で、都市計画やランドスケープデザインなど、ソフトを踏まえた環境整備の専門家を招聘してはどうでしょうか。アンケートの設問、ワークショップの運営について、施設管理が中心の担当者によりコーディネートではなく、専門知識のあるファシリテーターの招聘が望まれます。議論は町民中心で進むべきであると思いますが、町民レベルでは「まちづくり」、「都市計画」、「教育環境整備」などの課題について知識範囲が狭く、言葉はわるいですが議論が「素人」の域を脱しません。

是非、仕様書の作成の前に、民意を引き上げる方策として、ランドスケープデザイン等の専門家を招聘していただきたいと思います。

### ○環境水準の保全

都市やその校外の住宅地では、一般的な住環境を並び教育環境はある地域への居住の決定に大きな動機になっています。新しい施設整備にあたっては、その構成やレイアウトにとどまらず、「文教地区」として区域レベルの環境保全が重要となります。

生活水準の高いコミュニティでは、例外なく安全で快適な住環境が保全されています。その大きな特徴は、商工業の要素が排除されている点です。

高野町は山間地域ではあるものの、年間で多くの参拝者・旅行者が来訪します。今回の計画では、もともと観光先としての高野山中心部とは離れた鶯谷地区に教育関連施設が集約されるという点で商業（観光）エリアと文教地区の分離が可能です。

そこで、やはりソフト面での運営が重要になります。せっかく物理的に分離できる状況にありながら、運営上の決定によって環境を保全できていません。

例を挙げると、数年前に3B体操の大会が開催されましたが、会場が中学校の体育館となっていました。その際、外部からの参加者（主に大人）は大挙してバスで現地に入る一方、交流目的で招集されて高野山小学校の児童は雨の降る中、小学校から徒歩で現地に向かい、役場横から上野山組事務所付近までの幅員が極端に狭い道路を歩く児童の列のすぐ脇すれすれをバスが通過する、また中学校入り口でも何台も停車しているバスの間を縫うように児童が歩くという危険な状況にありました。

また、夏に開催されている少年野球大会でも、同様に選手を乗せたバスや父兄の車などが多数、この「文教地区」予定区域に流入します。道路状況が悪い中、交通量が極端に増えることによって、道路をあるく地域の子供や住民にとって危険も増しますし、騒音や路上駐車

など環境悪化も招いています。

このように、行政の運営上に都合で一時的とはいえ、環境の著しい悪化は回避すべきですし、「文教地区」としての整備を考える上で、地域の子供達、住民のための住環境、教区環境の保全が最優先であることは言うまでもありません。

このように地域の教育環境の保全には、かなりの制限、排他的な措置が必要となってきます。精神的、経済的両面で生活水準の高い地域では当然のごとく実践されています。地域住民の生活環境や子供達の成育環境と外部不特定多数の人たちの商業的な流入とは明確に区別する必要があると思われます。

具体的には今回の計画で整備される体育館やグラウンドはあくまで地域の学校教育ベースでしか使用しない、また大人を含めた不特定多数の人が利用する場合は高野山大学や高野山高校、あるいは現在の町民体育館を存続し利用する、など明確な運用ルールが必要となると思います。

このように新施設の建設には運用上のソフトについても考慮する必要があります。一点目で述べた専門家の指導により、いわば現状の「住民の願望レベル」の意見ではなく、長期的視野にたった利用、運用を導き出す作業が望まれます。

以上、2点について意見を述べさせていただきました。鶯谷地区における教育施設の集約と文教地区の整備はこの地域で育つ子供たち、彼らを養育する親にとって非常に歓迎すべきものではありませんが、教育理念や運用方針などソフトをしっかりと踏まえた長期的な視野にたった施設整備の計画にさせていただきたいと思ひます。